

25. Tl-201, Ga-67 の SPECT による原発性肺癌の N 因子の描出能の検討

松野 慎介 影山 淳一 合田 文則
 佐藤 功 高島 均 玉井 豊理
 田辺 正忠 (香川医大・放)
 水川帰一郎 (住友別子病院・放)

原発性肺癌手術肺に Ga-67 と Tl-201 SPECT を施行し、retrospective に肺門・縦隔の N 因子について検討した。症例は N 0-16 例, N 1-3 例, N 2-4 例の計 23 例であった。Tl は 3~6 mCi, Ga は 3 mCi 投与した。判定は肺門または縦隔領域に一部でも集積があれば陽性、なければ陰性とした。肺門リンパ節では Ga は sensitivity 100%, specificity 28% であり、Tl は sensitivity 83%, specificity 100%。縦隔リンパ節では、Ga は sensitivity 100%, specificity 53%, Tl は sensitivity 100%, specificity 81% といずれも specificity は Tl が高値を示した。以上より、SPECT での N 因子の検出には Ga よりも Tl が優れていると考えられた。

26. ¹²³I-IMP による悪性黒色腫の描出

森田 浩一 福永 仁夫 大塚 信昭
 永井 清久 三村 浩朗 柳元 真一
 友光 達志 森田 陸司 (川崎医大・核)
 小野志磨人 西下 創一 (同・放)

悪性黒色腫 7 例に、¹²³I-IMP によるシンチグラフィを施行した。¹²³I-IMP シンチグラフィは、¹²³I-IMP 3 mCi を静注して行い、30 分から 48 時間目まで経時的に撮像した。病変部への ¹²³I-IMP および ⁶⁷Ga-citrate の集積を検討するとともに、その大きさや撮像時間と ¹²³I-IMP の集積との関係を検討した。8 病変中 4 病変 (50%) に ¹²³I-IMP の集積を認めた。眼球原発の悪性黒色腫 (1.4×0.8 cm) を除くと、腫瘍の大きさと ¹²³I-IMP の集積が相関する傾向が観察された。¹²³I-IMP および ⁶⁷Ga シンチグラフィをほぼ同時期に施行し得た 6 病変中 5 病変では、両者の集積状態は一致した。不一致の 1 例は、⁶⁷Ga シンチグラフィが偽陽性であった。このように、¹²³I-IMP シンチグラフィは、悪性黒色腫の診断により特異性を与えるものと思われた。また、悪性黒色腫の描出には、¹²³I-IMP 静注後 2~48 時間目の delayed scan が有用であることが示された。

27. 甲状腺原発悪性リンパ腫 3 例の核医学的所見について

細川 敦之 外山 芳弘 松野 慎介
 宮本 勉 川崎 幸子 玉井 豊理
 田辺 正忠 (香川医大・放)
 川瀬 良郎 (国療高松病院・放)

甲状腺原発悪性リンパ腫にガリウムシンチを施行した場合、高い陽性率が報告されているが、われわれの経験した 3 例の集積の度合はさまざまであった。われわれは 1 例だけであったがタリウムシンチを施行し、原発巣だけでなくその進展病巣にも著明な集積を認めた。しかし、同症例のガリウムシンチではタリウムシンチに比べて進展病巣の集積は不十分であった。この例から、甲状腺原発悪性リンパ腫の原発巣および進展病巣の検索には、ガリウムシンチとタリウムシンチは相補う検査として利用できるのではないかと推定した。

28. I-131-MIBG Scintigraphy の臨床的意義

中村 誠治 東野 博 棚田 修二
 最上 博 片岡 正明 伊東 久雄
 河村 正 木村 良子 飯尾 篤
 濱本 研 (愛媛大・放)

I-131-Meta Iodo Benzyl Guanidine (以下 MIBG) Scintigraphy は褐色細胞腫等の診断に有用であると評価が確立されているが、当院にて延べ 47 例に施行し、11 例の陽性描出を認め、代表例を呈示した。

褐色細胞腫治療前 7 例および神経芽細胞腫治療前 4 例の全てに陽性描出を認め、I-131-MIBG Scintigraphy はこれらの腫瘍の存在診断・質的診断に有用な検査と考えられる。

また、I-131-MIBG 静注後 48 時間後の正面像にて、褐色細胞腫治療前の症例は全て心筋への集積は認められず、他の症例では高頻度に集積が認められた。